

---

# テンプレートらしいから略します

月島 真昼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テンプレートらしいから略します

### 【Nコード】

N8323I

### 【作者名】

月島 真昼

### 【あらすじ】

異世界召喚物を書いてみた。

(略)

というわけで俺は勇者として異世界に召喚されたらしいのであった。

……なんかめちゃくちや紆余曲折あつて異世界へ招かれたというのにテンプレートらしいからという非常に納得の行かない理由で省かれてしまった。

てゆうーかなんだ？ いきなり化け物に囲まれてるじゃないか。状況を把握しようと俺はあたりを見渡す。白や赤、黒、銀といった多種多様な色を持つ異形の化け物共がこちらを伺っている。俺はなんだかスゲーところに来てしまったようだ。そんな中にひどくおかしな格好をした人間が居た。どうやら襲われそうになつていたらしい。俺はおい、大丈夫か？ と彼に呼び掛けた。

「〃全々×○\$@\* & # £」

……訳のわからない言語で返事が帰ってきた。そうだよな。冷静に考えたら異世界だもんな。言葉が通じるわけないよな。

「まっ、やってやろうじゃねえか」

俺は俺と共に落ちてきたと思われる銀の槍に手を伸ばした。おそ

らく俺を呼び出した神の用意した武器だろう。柄を握る。握り心地は最高によかった。

「はあっ！」

俺は先頭の魔物目掛けてそれを叩きつけた。

ガギインと派手な音がしてそいつは装甲ごと叩き潰れ行動不能になった。

「まだまだあっ！」

俺は更に次の怪物目掛けて得物を振るっていった。

……そいつは俺の前にいきなり現れた。目の前の空間が光っていきなりそいつが出てきたのだ。俺は思わず腰を抜かして尻餅をついた。そのさいにカランと荷物から愛用の金属バットが転がり落ちた。そいつのことを詳しく書く前に俺はひどく平凡で一般的な高校球児だということを説明しておこうと思う。服装？ 当然学生服だ。

そんな俺と対照的にそいつは……、なんて言えばいいんだろうか？ ドラ○エ3の勇者の服装を完コピしていた。宝玉のついた金色の冠に少しボロの青い服。屈強そうな脛が剥き出しになった黒いズボン。

そいつはあたりを見渡してから尻餅をついている俺に話し掛けて

きた。

「ピフペパ、ピフペパピ？」

……いや、わかんねーよ。電波すぎるだろ、こいつ。せめてコスプレまでにしとけよ。

「お前…… なんだよ……？」

俺と裏腹に何かに納得したらしいロトの勇者（仮）は「ピ、パピ  
プペ」と呟くように（と俺は感じた）言った。そしておもむろに俺  
の金属バットを拾いあげ、

ガギイン！

近場にあった車に向けて振り下ろした。

俺、啞然。

「パピパピィー！」

……え、なにしてんのこいつ？

次々に路上にあったり走ったりする車に飛び掛かる。

俺は目の前の惨劇というか地獄絵図に呆気にとられ、へしゃげて  
いく金属バットを見ながらこう思った。

（以下テンプレートらしいから略します by作者）

(後書き)

見てるか  
クレオ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8323i/>

---

テンプレートらしいから略します

2010年10月21日15時23分発行